

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

富山県滑川市

#### ○学校名

滑川市立滑川中学校

#### ○学校のURL

<http://www.tym.ed.jp/sc242/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】 1 学年 6 学級、 2 学年 6 学級、 3 学年 6 学級

【特別支援学級】 2 学級、【合計】 2 0 学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】 6 4 9 名（平成 2 5 年 1 1 月 1 日現在）

（内訳： 1 年生 214 人、 2 年生 212 人、 3 年生 223 人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校教育目標】

豊かな心で、学び合い、認め合い、健やかに生きる生徒の育成

《目指す生徒の姿》

(知) 学び合い…夢や目標をもって学習に励み、ものごとに粘り強く取り組む生徒

(徳) 認め合い…互いのよさを認め合い、心豊かに伸びる生徒

(体) 健やかに…規則正しい生活習慣を身に付け、体力の向上と健康づくりに励む  
生徒

##### 【本年度の重点目標】

思いやりの心を大切にし、共に高め合える生徒の育成

##### 【人権教育に関する目標】

豊かな心で、互いに認め合い尊重し合う生徒の育成

## ○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】 豊かな心で、互いに認め合い尊重し合う生徒の育成  
－ 自他の人権を尊重する態度を養う教育の充実を目指して －

### 【研究の重点】

- ① 【体験的な学習部会】 体験活動と自治的な活動を通じた豊かな心の育成
  - ・ 生徒会や部活動等を中心とした自主的なボランティア活動を推進して、相手の立場に立って考えたり行動したりする思いやりの心を育てる。
  - ・ 体育大会や合唱コンクール等の行事において、生徒の自治的な活動を推進し、互いの立場や意見を尊重して行動するように促す。
  - ・ 地域行事への参加を促し、地域の一員としての自覚を養う。
- ② 【道徳部会】 思いやりの心を大切にし、よりよい生き方の自覚を促す道徳の時間を要とした道徳教育の充実
  - ・ 道徳教育についての講演会による教員研修を実施する。
  - ・ 内容項目 2－(2) を重点にして教材研究をし、授業研究を実施する。
  - ・ 「いのちの授業」を通して、親の深い愛情に気付かせ、いのちを大切にしようとする気持ちを養う。
- ③ 【いじめ・不登校対策部会】 悩みや苦しみを共有し、共に支え合い、心の豊かさを感じ合う生徒集団の育成
  - ・ ピアサポートの考え方を生かした、学年、学級での取組、生徒間での交流を図り、かけがえのない仲間の支えを実感できる生徒集団を育成する。
  - ・ 学級でエンカウンターを実施し、温かい人間関係を育む。
  - ・ 「いじめのない学級づくり」の授業を展開し、「いじめ」と真剣に向き合い、「いじめ」をなくし、人権を尊重しようとする気持ちを養う。

## 3. 特色ある実践事例の内容

### (1) 【体験学習部会】

#### ① あいさつ運動

4月中旬に生徒会が企画した部活動ごとの朝の「あいさつ運動」が実施された。6月には生徒会執行部による「あいさつ運動」が行われている。4月と9月にはPTAによる「あいさつ運動」も行われている。

#### ② ボランティア活動

##### ア 地域の清掃

- ・ 「櫛原神社の祭礼後の清掃」(6月)
- ・ 「龍宮まつり後の清掃」(7月)

##### イ 夏休みの老人福祉施設への訪問

7月の「14歳の挑戦」でお世話になった老人福祉施設のみなさんに喜んでいただこうと夏休みに訪問した。

- ・ 美術部による「似顔絵描き」
- ・ 文芸部による朗読劇



バドミントン部員による  
「あいさつ運動」



美術部による似顔絵制作

・2年生による合唱のプレゼント

③ 相手への思いやりを育てる自治的な活動

本校は行事、特に体育大会と合唱コンクールにおける生徒の自治的な活動に力を入れている。リーダーとなる生徒が企画、運営をし、みんなで一つの目標に向かって活動する中で、互いの考えや立場の違いを乗り越えて人権を尊重しようとする意欲が養われていく。

- ア 体育大会
- イ 合唱コンクール



「心に届け！心に響け！滑中生のハーモニー」のスローガンのもとに行われた本番

(2) 【道徳部会】

① 講演会

教員向けに講演会を開催。

② 道徳の授業

内容項目2－(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し、思いやりの心をもつ」を重点にして教材研究をし、授業実践を行った。

③ いのちの授業

12月に育児休業中の本校教諭とそのお子さんの協力を得て、1年生で「いのちの授業」を行った。



赤ちゃんとの触れ合い

(3) 【いじめ・不登校対策部会】

ピアサポートの考え方を生かして生徒間の交流を図り、かけがえのない仲間の支えを実感できる授業を企画した。

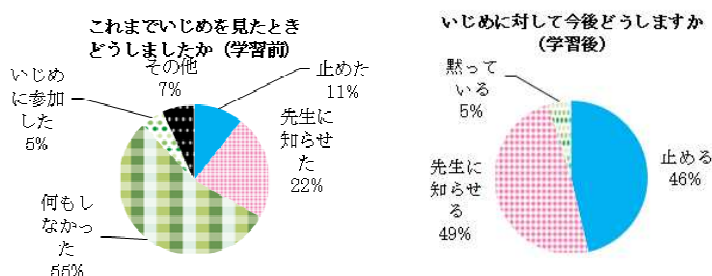
また「いじめのない学校」を目指して全校体制で集中的な取組を行った。

① 学級活動「心温まるメッセージを送ろう」

② 「いじめのない学校づくり」の取組

2学期の始業式で生徒指導主事が、学期の目標として「いじめのない学校を目指そう」と呼びかけた。これを受けて、各学年で取組が行われた。

アンケート結果から



学年集会で発表する様子

いじめの学習を行う前は、いじめを見て止めたり先生に知らせたりした生徒が33%であり、半数以上の生徒が「傍観者」として何もしなかったのに対し、学習後は、96%の生徒が、いじめに対して何らかの行動をとろうと思うようになった。いじめの学習を行うことで、ほとんどの生徒が、いけないことであることを再認識し、いじめが人の心を深く傷つける行為であることが理解できたと思われる。

「学年だより」から抜粋

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

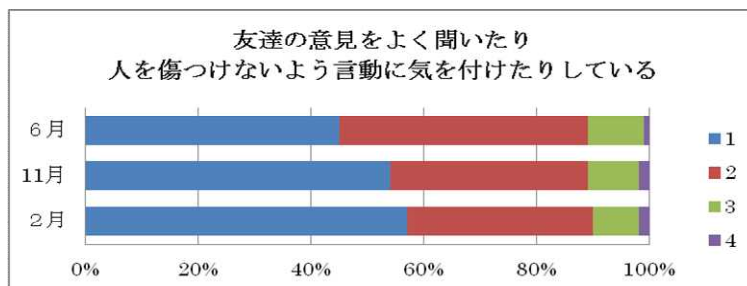
平成24年度のアクションプランアンケートのうち、「友達の意見をよく聞いたり、人を傷つけないよう言動に気を付けたりしている」の6月、11月、2月の調査結果は右下のとおりである。

ボランティア活動やいじめについての取組等の人権教育に取り組んだ結果「しっかりできている」を選んだ生徒は増加している。

しかし、「あまりできていない」「ほとんどできていない」

と答えた生徒の割合はあまり変化がなかった。

しかし、平成25年度は生徒会執行部が中心となり、全校生徒へボランティアバンク（登録制のボランティアグループ）への登録を呼びかけたところ、234名が登録した。その登録者の中から、祭礼後の清掃には90名。夏休みの老人施設訪問には130名が参加した。



1 しっかりできている 2 だいたいできている  
3 あまりできていない 4 ほとんどできていない

#### 5. 実践事例についての評価

##### 【成果】

##### ① 体験活動と自治的な活動を通じた豊かな心を育む活動の推進

夏休みの老人福祉施設訪問を、様々な形で多くの生徒が関わって行うことができた。お年寄りが喜ぶ姿を見て、生徒は充実感や成就感を味わうことができた。自分たちが役に立っているという自覚が芽生え、自信をもつことにつながった。このことが学校生活においても相手の立場を考えて、思いやりをもって行動しようとする意欲につながると考えられる。夏休みのボランティアについては今後も継続して実施していきたい。

##### ② 思いやりの心を大切にし、よりよい生き方の自覚を促す道徳の時間を要とした道徳教育の充実

講演から、道徳教育に臨む基本的な心構えや、道徳の資料の読み取り方、授業の組み立て方の基本が分かり、授業に生かすことができた。内容項目2-(2)に重点を置いて授業をしたが、すぐに効果が現れるというものではない。しかし、生徒が共に考え、認め合う道徳の授業を続けることで、生徒同士の相互理解が深まり、互いを尊重する雰囲気が醸成されると思われる。長い目で生徒の道徳的実践力を育成していきたい。

##### ③ 悩みや苦しみを共有し、共に支え合い、心の豊かさを感じ合う生徒集団の育成

学級活動「心温まるメッセージを送ろう」を実施することで、「相手のために考えることは相手のためになり、自分の気持ちもよくなること」「一言で気持ちが変わる。言葉には力があること」を生徒たちは感じていた。この授業を基にして、保健委員会では生徒の朝食調査についてコメントを返す活動をした。きちんと書けるか心配していたが、全員、友達を思いやる気持ちで返事を書くことができた。

このような生徒の変容は、授業の成果だと考えられる。普段の学校生活においても、ちょっとした悩みを相談している場面はよくみられる。また、友達の一言で支えられている様子が見える。

「いじめのない学校づくり」の授業を全校で集中的に行ったことにより、生徒の意識が変わってきた。いじめについてみんなで真剣に向き合い、「いじめとは何か」、「なぜいけないのか」ということについて共通の認識をもつことができた。また、いじめはなくさなければならぬものであり、一人一人の意識を高めること、人を思いやる心を養うこと、周りにいる人が見過ごさずに行動を起こすことで解決できるということに気付いていった。

#### 【今後の課題】

- ・ 全校、学年、学級といった組織的な取組によって、ほとんどの生徒の意識は高まっている。しかし、時が経つと意識も薄れがちになってしまうので、様々な工夫を重ねながら、継続した取組をしていきたい。また、少人数ではあるが、意識が低くあるいは情緒的に不安定なため問題のある行動をとってしまう生徒がいる。教師がチームをつくり、個別に根気強く指導していく必要がある。
- ・ ボランティア等で地域で活躍している生徒が、まだ限られている。中には積極的に行動している生徒もいるが、気持ちがあっても機会がないためにできない場合もあると考えられる。生徒自身のアイデアを取り入れながら、ボランティアの機会を増やし、もっと多くの生徒が地域活動に参加できるようにしたい。地域の中で様々な人たちと触れ合って人権を尊重する意識を高めていってほしい。

#### 【保護者や地域住民からの反応】

(学校評議員会での意見より)

- ・ 地域の公民館まつりの手伝いに参加してくれた中学生がいた。地域の大人からも好評であった。今後も続けていってほしい。
- ・ 人権教育でのいじめをなくす取組や伝統ある体育大会や文化祭の活動を通して、生徒たちは落ち着いた学校生活を送っているように見える。
- ・ 人権教育に対する様々な取組がされていて大変よいが、まだ、普段の生活に生かされていないところがあるように思う。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 滑川市立滑川中学校

相互に認め合い、尊重し合う生徒の育成を目指し、体験活動及び自治的活動を促し、道徳授業の改善を試み、ピア・サポートの手法を活用していじめ・不登校問題に取り組んでいる大規模中学校の事例である。生徒会や部活動の中での自主的なボランティア活動を奨励して自治能力や自主性の育成・強化を図っていること、育児休暇中の教員とその乳児の協力を得た「いのちの授業」実施により道徳教育の改善を試みていること、ピア・サポートを導入した学校づくりを進めていること、これらは中学校における人権教育の実効性を高める試みとして、示唆に富む。